

# ゆうかりに乾杯

第 148 回放送の概要 (2019 年 8 月 24 日放送)

## パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

くらら

(河野真紀)

あきこ

(村上明貴子)



## ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

かりん

(妹尾優香)

## 会計

小山俊則

## 相談役

わだかん

(和田幹司)

## 1. ゲストコーナー (1) 国際交流団体「チーム・スマプラ」代表の高橋大輔さん・仲亜希子さん

### 1. プロフィールなど

———高橋さん、ご出身はどちらでした？

(高橋) 四国の香川県です。今は神戸の須磨区に居ます。

———仲さんはいかがでしょう？

(仲) 神戸市北区の出身です。

———阪神淡路大震災の時はいかがでしたか？

(高橋) まだ大阪に進学してなかった。香川で中1のとき、揺れて起きたが震度3か4で、そんなに凄い地震とは分らなかった。母親は親戚の安否確認など慌てていました。

(仲) 小6で、寝てて二段ベッドが揺れて落ちそうになった。家が崩れるようなこはなかったが、食器棚が倒れて中のもの全部飛び出して、水道も1日止りました。

———何かボランティア活動されました？

(仲) 地元の家族たちに声掛け合って和太鼓グループをつくり、仮設住宅などを回って慰問活動をしました。和太鼓は別の家族が前からやっておられてプロも排出してたぐらいでした。被災者たちの反応は、こんな大変な時に、楽しい和太鼓をよく聴かせてくれたと、また小中学生も叩いていたので、演奏後にはみなさん涙々でありがとうの声を沢山いただきました。

### 2. 専門学校と就職 (ここから、基本的に高橋さん)

大阪の服飾専門学校のファッション・ビジネス学科で経営やディスプレイなど2年間学びました。就職もファッション系ブランドの会社、大手セレクトショップとか、外資系で有名ブランド会社を経験しました。販売とかバイヤーアシスタントとか展示会とか。ファスト・ファッション・ブランド会社ではマネージャーとして店舗の管理・ディスプレイなど、管理者としてやっていました。

### 3. カナダ留学

普通は20歳代の若い時に留学する方が多いですが、外資系の会社でしたので英語とか海外文化が仕事の中に入ってくるので本気で勉強しようと、29歳でワーキングホリデー（30歳まで）最後のチャンスと思って1年間カナダのトロントへ行きました。外資系でしたので現地の同会社のパートタイマーとして店舗で働きながら、学校へ行っていました。

———そこで何かエポックとなったことは？

カナダ・トロントは移民の国なので、価値観がそれぞれ、お互いを認め合い干渉しない、どちらでもない、というような部分がある。ファッションの話でも、凄く派手なキンキラキンのスパンコールの服を着たり、日本では誰がそんな服を着るのか、といったところですが、例えば人種によっては似合うものがあるって買う人もいます。普段着として着こなしている人もいます。やっぱり価値観が違う、物の見方が違うので、ファッションはかっこいいと思った。街もコリアンタウンなど世界中にあるが、また名称としてのタウンではなくイタリアやイギリスなどのちょっとした街を形成し、日本人倶楽部もあって、いわばコミュニティがあった。

一番のエポックは奥さんとなる人に出会ったこと。トロントで同じ語学学校に通い、実家が神戸の須磨。付き合ってから結婚して、子どもができたのでどこに住むか検討して、彼女の実家近くで暮らしやすいような須磨に住むことにしました。

———カナダ人やカナダに住んでいる人と日本人との働き方など違いは？

日本人はよく言えば勤勉だが、無駄が多い部分という面もある。人によっては取り違えて長時間働くことが良くて勤勉と思っているところがある。要するに、気持ちを切り替えてダラダラ10時間以上働いて頭が回らなくなるよりも、生産性を高くしようとするので今日は納めて翌日送りにしようとか、家族とのワークライフ・バランスを大事にする。日本企業のように、仕事だけというような上司はいないので、見ている限り残業するようなことはなかった。残業する人は好きでやっていて、仕事を楽しんでいるような感じでやるんです。

仕事以外では、街へ出て映画を見たり、その地域独特のお祭り（フェスティバル）・パレードが結構よく開催されていました。帰宅したら寝るしかありませんが。

### 4. 帰国後の生活

帰国して元の会社に戻ったので、行く前と比べて変るところはなかったが、海外に居た分、表現力がアップした。ディスプレイでも自分の世界観が出せるようになりました。また外資系会社でしたから、海外の本社から来日しても通訳なしで打合せができました。会社内ではポストが上がってゆくが、そこには余り興味がなかった。

### 5. 独立して個人事業主へ

戻ってから4年で退職し独立した。きっかけとしては、ファスト・ファッション業界は大量生産大量廃棄、多く捨てられていることはみなさんご存知ではないでしょうが、商品の回転は速いし、安売りしても売れ残るので、最後は焼却に回す。この風潮が自分の中でも生きづらく、これが正しいことか自問自答したのが会社勤めの後半、独立に繋がったと思う。



高橋さんファミリー

仕事の中身は国が変わっても同じだが、家族を大切に作る働き方などは同じ会社なのに何でこんなに違うのかと。日本に帰ってからはかなり犠牲を強いられ、サービス残業で終電を逃して朝まで仕事も。

—————独立して立ち上げられた「CRAZY DESIGN」は？

“居場所づくり”をテーマに、遊休不動産の活用、空き家を上手く面白く活用できないか、というクライアントの話を受けて、リノベーションしたり、人が集える場所を形作るだけでなく、どうやったら人がやって来るような仕組みになるかを一緒に考える。建築の専門的な知識はパートナーの建築士が、私は不動産の知識（宅建業資格）があり、トータル的にコラボし、条件に合わせて対応している。

—————ハードとソフトの問題は本来別々で、立派な施設を造っても活用方法まで気が回らず、“物を造っても魂を入れず”みたいなことが多いが？

そこに魂を入れるのが私たちの仕事だと思っている。

—————ファッションからこちらの方向へ変わられたのはなぜでしょう？

本来骨董趣味もあって古い物を大切にしていた。祖父は大工をしていたので、家には木材や釘が転がっていて、幼稚園の頃から舟を造って川へ流したりしていた。そんな環境でした。

ファッションの話と同じで、空き家を使わないから潰して更地にするのがもったいないので活用することに目を付けた。今では空き家が7軒に1軒、20%近くあるが、それを活用できるオーナーが少ないことや、オーナーもどこへ相談したら良いかわからないのが多い。たまたまご縁があって、面白い利用ができる人の存在が口コミで伝わって紹介を受けたケースをお手伝いさせていただいている。

魂を入れる仕事というのは効率が悪く、造って渡せば終わりというものでもなく、余り数多くを引き受けられない。引き合いは多く来ますが、相続とか仕事とかで、いきなり難問に直面されて相談に来られる。ボロボロになった空き家・廃墟みたいに朽ちてこうもりが生息しているみたいな案件もあります。

## 2. ミュージック：たかとり救援基地復興隊 「夢光る町神戸を」

### 3. ゲストコーナー（2）

#### 6. チーム「スマプラ」について

スマプラ（Suma International Relationship Plan）は須磨区における国際関係のプランということで、海外との交流も意味します。

海外のトロントで暮らしていた時にお世話になった色々な国の方々に恩返しをしたいと思い、助けてくれた人に直接お返しすることはできませんが、日本に住んでいる外国の方々が日本で暮しやすくなるように、またコミュニティを組み合わせるとかお手伝いできたら、と立ち上げました。メンバーは8名で、内容はバラバラですが、バラエティに富んでいます。アイデアは私が作ります。湧いて来すぎて、どこから手を付けようか、という感じです。

—————日本と海外の文化の違いを、どうコミュニケーションして理解し合えるようにしているのでしょうか？

例えば私（高橋）とか仲さんのように英語がしゃべれると良いのですが、言語が違うと壁を作ってしまうのが日本人の特徴ですが、言葉のスキルよりもコミュニケーションを取ろうとする姿勢があれば打ち解けて行けます。特に子供たちの場合は、言葉の壁を越えて仲良くなれたりします。イベントを通してその切っ掛けを作るのがポイントなんです。

—————ご近所に外国人家庭が沢山あって、外国人のママ友さんが、子どもが入学した際に学校からの

便りに「給食袋を用意する」とあっても想像つかなかったそうです。言葉は分っても生活文化の小さい事まで想像できなかった、行政にも教えてもらえない、ということがあったのですが・・・。

私が求めているところもそこで、イベントで出会ってそれでお仕舞いではなく、参加者同士や講師との繋がりの中から仲良くなっていく。その辺りが私の目指すところ。日本に来て外国人も同じ国同士で集まったりはしているが、生活文化の隅々までというのは日本人に聴かなければ分らない。その場所を提供しようとしています。

## 7. 社会問題・環境問題への関心

————— どういったイベントをされていますか？

(高橋) 最初は映画の上映会が多かった。外国の方も日本の方も呼びした。社会問題・環境問題の映画「バベルの学校」とか、移民のことを取り上げている。

————— 仲さんも見られました？

(仲) 見ました。移民という言葉は聞くことはあっても体感することはなかったし、映画を通して多国籍の生徒さんたちが集まって、文化も違うバックグラウンドも違う、その中で子供たち大人たちがどう成長していくか、というドキュメンタリーです。凄く考えさせられこともあって、日本ではいじめ問題があるが海外ではそういう文化・環境すらなかったり、この映画から考えさせられました。

————— 日本の文化・やり方とで何か違和感のようなものは？

(仲) 欠けているというか、現在では多くの外国人も来日されているので、違いを認めつつあるように思います。まだまだ日本人は壁を造って、言葉が通じないとちょっと怖いなあとか、多様化社会のいま日本人も多様性を認めていけるような社会になれば、と思っています。

(高橋) 最近の子育て事例で、ベトナム人の多い校区では、地域のママさんの間で「荒れた学校」のイメージがある。荒れると言っても学級閉鎖みたいなことではないし、ただ外国人子弟が多いというだけで荒れているという表現・イメージはおかしいと思う。多分、分らないからそういう表現になっているんでしょうが、大変残念なことです。みなさんもっと知って欲しい。

————— 日本の学校では運動会などいわば行軍的なこともあるが、外国人の多いところでは普通に歩けるとか比較的自由的な雰囲気のところもある。お互い理解できるようになれば良いですね。

(高橋) 軍隊的に歩くのも規律性があるという人もいるし、自由に表現できて良い、とするところもありますよ。

————— 須磨寺に頼まれて色々なイベントをされていますね？

今年度の年間行事は須磨寺一本にしている。お寺のテンプルと英語のイングリッシュとの造語で「テンプリッシュ」と名付けている。お寺を使わせてもらって日本の文化を英語で楽しもう、というもの。明日も須磨寺で、竹を割って流しそうめんを食べるというのを英語でやります。講師は外国人がネイティブ英語でしゃべります。ほぼ全員日本人の子供たちで、英語を学べる正に寺子屋といったところ。

お寺は堅くて交渉が大変みたいに言われますが、須磨寺副住職の小池陽人さんは、お寺を地域に開きたいと様々な活動をされていて、Youtuber です。数年前に小池さんと知り合い、私の活動を分っていただき、是非に須磨寺でやって欲しいと依頼を受けて、年間を通じたプログラムで始めました。

他に、子ども英語カルタ大会を日本人の子ども向けにやりましたが、保護者(親)の方が熱心に要望され、毎回定員をオーバーする盛況、使う有名な英語カルタ(NHK)を事前に紹介しているので勉強して来られる方もいらっしやいます。読み手は外国人の方が担い、本物のネイティブ英語の発音や空気感に拘ってやっています。例えば「キューカンバー」と読まれたらキュウリの絵札を取る。クイズ的な読み取る

こともあります。難しい札もあり、クラス分けしてゲームしている。

英語カルタは人気で、普段は同じイベントを続けませんが、要望に合わせて3回ぐらいいやりました。



教育関係のものも良いですが、身体を使ったり表現したりも良いと思っている。年1回ファッションショーをやります。「エシカル」という言葉、倫理的といった意味ですが、製造工程において誰も傷付けず環境に負担もない生産・販売方法で、服飾では「エシカル・ファッション」と言います。これに則ってお寺で実行するので「テラシカル」と名付け、昨年から須磨寺でやっています。ボランティア参加も多く、お寺の希望でハードルを下げ、格式高いとかでなく誰もが気軽に参加できるようにしている。モデルの方も年齢不問で上は60歳代から赤ちゃん抱っここのママさんでもランウェイしているし、デザイナーの方も私始めメンバーや知り合いに加えて業界知り合いにも声かけして参加してもらっている。

(仲) デザイナーさんがモデルさんが歩く間に、洋服をデザインした工夫や思い、アクセサリを作る細かい作業とかをコメントしています。

(高橋)「エシカル」の考え方はデザイナーさんが説明しないと理解しにくいのでアピールして貰います。来年3月にも計画、年明けから募集する。登壇ゲストスピーカー3枠のうち1枠は決まっているので、あと2枠。スピーチが終わってお昼からショーを5時ぐらいまで開催する。



—————スマプラは社会問題とか環境問題に関心が強いですが、いろんな映画の上映会を開いて普及に努めているそうですが？

映画「The true cost」はファスト・ファッションのことで、どのくらい廃棄されているか、安い染料で河川を汚染しているか、農薬はどのくらい使っているかなど、「寺シカル」向きです。

映画「A Plastic ocean」は、プラスチック塵の海洋汚染ドキュメンタリーなので、海にマイクロ・プラスチックが広がって魚の胃袋だけでなく身にも及んでいること。また汚れがよく落ちる食洗スポンジもマイクロ・プラスチックを出すので、使えば海に流れていくこと。細かい塵は除去できずに循環して人体に戻ってくる。便利な物には裏があることを知ってもらいたい。

—————プラスチック使用をやめようという運動が起きている。海底を探ればプラスチックがうようよと、回復不可なところまで来ているのではないかと思えますね。

映画「0円キッチン」は、食糧廃棄のドキュメンタリーで、世の中の食糧の3分の1は食べられることなく廃棄されている現状に抗して、捨てられる食材を使ってお料理をするキッチンカーで世界を回る映画。映画を見ていて大変もったいないと思えるのですが、我に返って見れば同じことをしていることに気付かされる。

## 8. 今後の抱負

（高橋）大きなテーマではありませんが、大事なことは続けることです。面白いことは熱量があるがその反面飽きやすいこともあり、面白いことを連発して飽きないように、メンバーも楽しめるように、単に馬鹿騒ぎするだけでなく、テーマとして地球環境とか社会問題を楽しみながら学べるコミュニティづくりを継続して提案して行きたい。

（仲）私は本業を持っているので、この活動にドブプリはまることできていませんが、社会問題とか国際交流については興味があり、何でもやりたいし、伝えて行きたい。しっかりサポートして少しでも貢献できたらいいと思っています。

—————高橋さんは、3月に放送した「はっぴーの家ろっけん」のオーナー首藤さんから紹介していただきましたが、長田六間道の「R3」とか「ダンスボックス」とか新長田周辺で活躍されている方々と密接に結びついて世間にインパクトを与えられるよう活動されていて、これからも期待しています。

（高橋）「はっぴーの家ろっけん」とは多くのイベントの機会があり、アイデア・司会なども色々やっています。

## 4. 地域瓦版

・アートプロジェクト「TRANS KOBE」が兵庫、新開地、新長田を舞台に9月14日から11月10日まで開催されます。ドイツ出身のグレゴール・シュナイダーさんが12カ所での作品展示、神戸出身のやなぎみわさんのトレーラーを使った野外劇など。

・現代アート展覧会「第10回六甲ミーツ・アート芸術散歩2019」が9月13日から11月24日まで開催されます。六甲山の魅力を再発見してもらう試みで2010年から開催しています。

・長田の「下町芸術祭2019」（10月12日～11月10日）のプレイベントの「下町芸術大学」の全10回の講座を開校します。8月23日から10月4日まで。



## 5. エンディング

———この番組は youtube でも配信しています。FM わいわいの HP、スマホアプリではポッドキャストでもお聴きになれます。また「ゆうかりに乾杯」の HP では音声とともに放送概要もご覧いただけます。

（仲）私は国際交流に興味があるので、前向き・ポジティブに活動できますが、国際交流とは何かとか外国の方と繋がることに前向きになれない方もいらっしゃいます。そういう方にこそ楽しいと思って貰えるような活動がやりたい。須磨寺での活動を覗いていただきたいと思います。

———観光・ツーリズムで外国人向け木賃宿とか民泊とかを、ご近所の理解を得て空き家を活用して外国人コミュニティも加わって実現したらどうか、という議論・提案もありますが。

（高橋）以前から民泊事業もやってきたので、その際利用上で何も問題は起きなかったし交流も生んだ。一部の悪徳業者が問題になるのであって、もっと普及すると良いと思っている。

放送音声は、FMYY の HP および「ゆうかりに乾杯」の HP で視聴いただけます。  
<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51>      [http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/](http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/)